

# LOROSAE-TIMOR

東ティモールからの便り⑤ 2024.9

青年海外協力隊 2023 年度 4 次隊 若森恵里:看護師

## Botarde! Di'ak ka lae? (こんにちは、元気ですか?)

最近日本では台風が多く発生しているとのことですね。東ティモールはまだまだ乾季が続いていますし雨期になっても台風やそれに伴う津波はほとんど発生しないので年間を通して海からの自然災害は少ないそうです。ただ路面の舗装はまだまだされていないところが多いので土砂崩れは起きますし、排水路や川にゴミがあふれているため増水からの氾らん、浸水なんてのも頻繁に起きるみたいです。

そのほかとしてはやはり自民党総裁選が大きなニュースでしょうか！東ティモールの首相は国民議会で指名され、大統領により任命されます。民主主義国家なので選出方法が似ていますね。現首相は15年前に2期にわたり首相を務めたほか初代大統領としても活躍されました。(右のおじいちゃんがシヤナナ首相です。ローマ教皇来訪準備時こんな感じで作業していました www)



## 【住民投票記念日】

8月の話になりますが、8月30日は住民投票記念日でした。3回ある『independence day(独立記念日)』のうちの一つです。今年は25周年記念ということもあり国連事務総長も来訪され街はお祭りムードが漂っていました。活動先の病院も国旗を揚げて飾り付けを行っていました。しかも前日、前々日がお休みになるというのです。競技場の前にも屋台が出ていましたし、このような祝日に対する在り方や過ごし方が日本とは違っているなあ実感します。

東ティモールは1974年に一度独立を果たしますが、翌年インドネシアに侵略を受け支配されていました。'98年インドネシアの政権交代で独立が容認となり、再度独立をするかの住民投票が実施されたという経緯を持っています。だから『independence day』が大切にされているのかもしれないね。

他国の文化に触れると、はて日本ではどうだろう？と考えてしまいます。調べたところ日本には明確に独立記念日として扱われる日はありませんでした。建国記念の日がそれっぽく見えますがこれは祝日法改正に伴い議会で制定された祝日だそうです。

住民投票記念日とは話が変わりますが、なぜ建国記念日ではなく建国記念“の”日となっているのか、調べてみると面白いですよ！



国連の旗も飾られている



住民投票記念日のポスター



## 【PAPA に来る！～ローマ教皇来訪～】

タイトルに PAPA と入れましたがローマ教皇のことを、ギリシャ語の Papas(〈父〉の意)に由来してラテン語の Papa=教皇という愛称が用いられそう呼んでいます。(無知な私は日本人同士でローマ教皇の話題中「パパがさ～」と話を切り出されたときよっとなりました。え？パパ?!となりました)



街の至る所に設置された看板

9/9～9/11に35年ぶりに来訪したPapa。国民の99%がカトリックである東ティモール人にとっては国を挙げての大イベントです。8月はじめから徐々にPapaの看板が増え始め、TシャツをはじめたくさんのPapaグッズが登場。一目Papaを見ようと地方から首都ディリに大勢の国民がやってきました(軽トラの荷台にぎゅうぎゅう詰めで乗っていた)。事前の予測情報では100万人もの人が集まるのではないかとされていました(実際は60～70万人くらい。それでも十分すごい集客…)。総人口134万人のうちの100万人が、首都人口32万人のディリに集結する…当然観光事業の発達もまだまだですし、地方の人たちは十分なお金もないのでホテルに泊まることも出来ません。そのため1週間ほど前から学校が休校になりそこが宿泊施設として開放されることになりました。Papa来訪に合わせて飛行機の欠航や県境の交通規制もされ物流の停滞、電波の停滞などがおこり、3日間のおこもり生活を堪能していた私は移動手段が徒歩しかないこともあり、暇を持て余す結果となりました。

当日はYouTubeで中継もされPapaTシャツを着て、Papa傘、Papaフラッグをもって沿道にいるティモール人をたくさん見て、東ティモールにおける宗教の熱を感じました。



Papaが刺繍されたキーホルダーやしおりなどのグッズ



交通規制により車が一台も通っていないくて美しい景色になっている



旗1本ちょうだいで言ったら3種類各30本もらった



各県の特徴を活かして飾られている



この方がローマ教皇



沿道で旗を振り Papa を迎える人々。感動で泣いている人もいたとか…もはやアイドルの域



公開ミサに集まった人々。交通規制がありこの会場に徒歩 2 時間くらい掛けて向かったそうです



## 【東ティモールの紹介④ 宗教】

9 月はローマ教皇が来訪したこともあり、少し宗教について取り上げたいと思います。

東南アジアの国なのでイスラム教やヒンドゥー教を信仰していると思われがちですが、東ティモールは国民の 99%がキリスト教を信仰しています。バチカン市国に次ぐ人口に対するキリスト教徒の割合が多い国です。インドネシア軍の侵攻前(1973 年)は 30%弱の比率でしたが、インドネシア占領下での宗教政策で国民が公認宗教から選んで登録するように迫ったことからポルトガル統治時代のカトリックを選び、キリスト教の信徒が増えたとされています。



先日あったローマ教皇来訪での盛り上がりでも国民の信仰心が強いことは感じ取れましたが、普段の生活でも感じ取ることが出来ます。右の写真は院内の病棟にあるキリスト像です。確認しましたがすべての病棟にありました。また現在は建て替え工事中ですが院内にミサが出来る小さな教会が併設されています。患者・家族・スタッフ、この像の前を通る際みなさん胸の前で十字を切ってお祈りをしています。また院内研修に参加した際は始まりと終わりに挨拶のように聖書の一文を読み上げていました。ベモで教会前を通ったときも同様にお祈りをしています。



そして毎週日曜日は教会でのミサがあり多くの人とそのミサに参加します。道路には駐輪の車やバイクがあふれていて、止める場所がないので歩道も埋め尽くしているほどです。

私たち日本人は信仰している宗教は？と聞かれてはつきり答えられる人は多くはないでしょう。「宗教」イコール「教え」の意味が強いと感じているかもしれませんが、教えを知らないことと信仰心がないことはつながりません。神頼みや先祖に手を合わせるといった、私たちが習慣的に行っている行為も海外の人から見たら十分立派な宗教行為に当たります。もっと身近なものとして宗教を捉えていく必要があるかもしれませんね。



ではまた次回お会いしましょう！

Adeus!!!

